

2025 年 2 月 4 日

国立病院機構 別府医療センター

小児科・NICU 2024 年 年報



別府医療センター 小児科

1. 2024 年 小児科入院統計

1) 入院数と転帰	4
2) 月別の入院数	4
3) 時間帯別の入院数	4
4) 年齢別の入院数	5
5) 入院数の年次推移	5
6) 入院患者の疾病区分	6
7) 救急車の受入数	7
8) 人工呼吸管理症例	7
9) 院内手術症例	7
10) 死亡症例	7

2. 2024 年 小児科外来統計

1) 外来患者数	8
2) 外来患者数の年次推移	8
3) 紹介患者数の年次推移	8
4) 紹介元医療施設と紹介患者数	9

NICU（新生児集中治療室）

3. 2024 年 NICU 入院統計

1) 入院、転帰	10
2) 在胎週数、出生体重	10
3) 呼吸管理症例	11
4) 院内手術症例	11
5) 入院数等の年次推移	11
6) Category 別の推移	12
7) 他院への転院症例	13
8) 新生児用救急車の出動形態	13
9) 新生児用救急車の出動先	13
10) 死亡症例	13

4. 臨床研究・研究業績 14

5. 総評 16

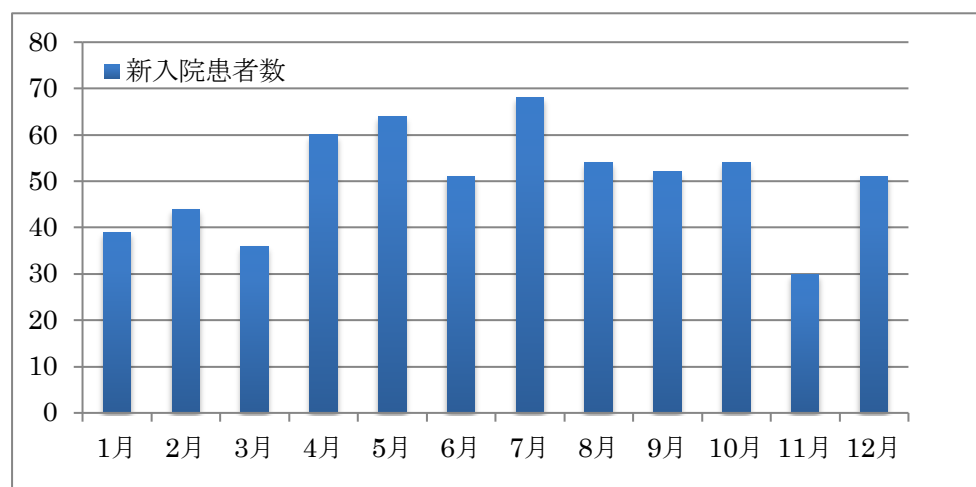
- 1) 2024 年の所感
- 2) 2025 年に向けて

1. 2024 年 小児科入院統計

1) 入院数と転帰

	入院	死亡	剖検
入院総数	714 (100%)	2 (2.6%)	0
小児科	603 (84%)	2 (3.3%)	0
NICU	111 (16%)	0 (0%)	0

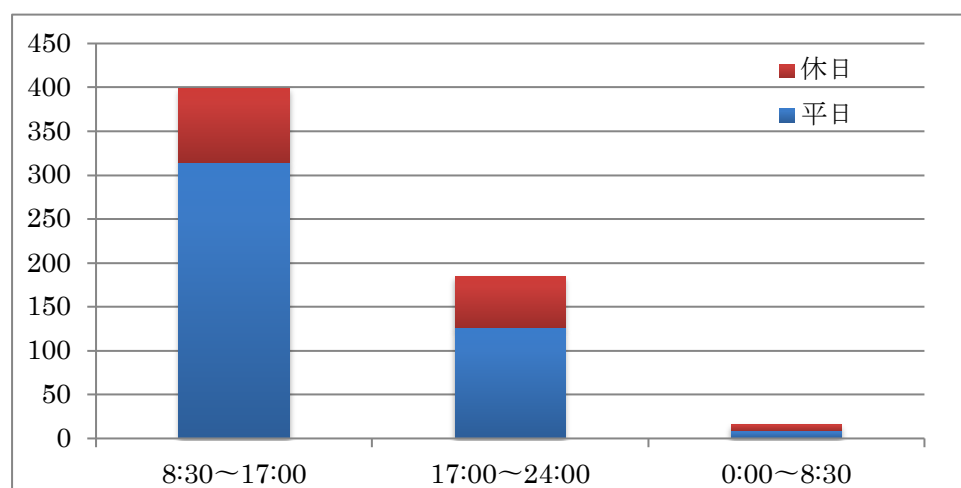
2) 月別の入院数



※ NICU 入院患者は除く

4-5 月と 7 月に感染症の入院患者が増加しました

3) 時間帯別の入院数

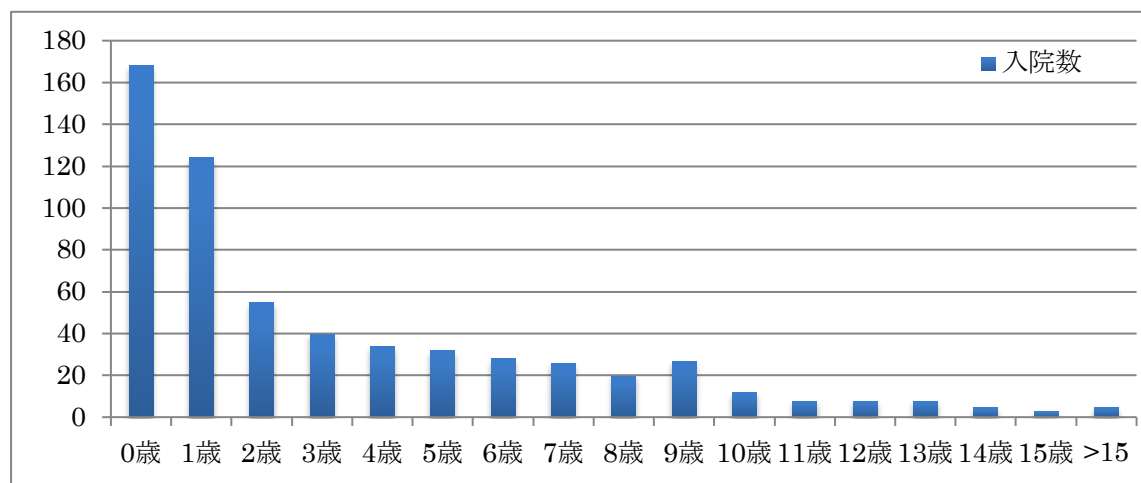


8:30~17:00 400 人 (66%)、17:00~24:00 186 人 (31%)、0:00~8:30 17 人 (3%)

※ NICU 入院患者は除く

日中 (8:30~17:00) と夜間 (17:00~翌 8:30) の入院比率は約 2:1 でした

4) 年齢別の入院数



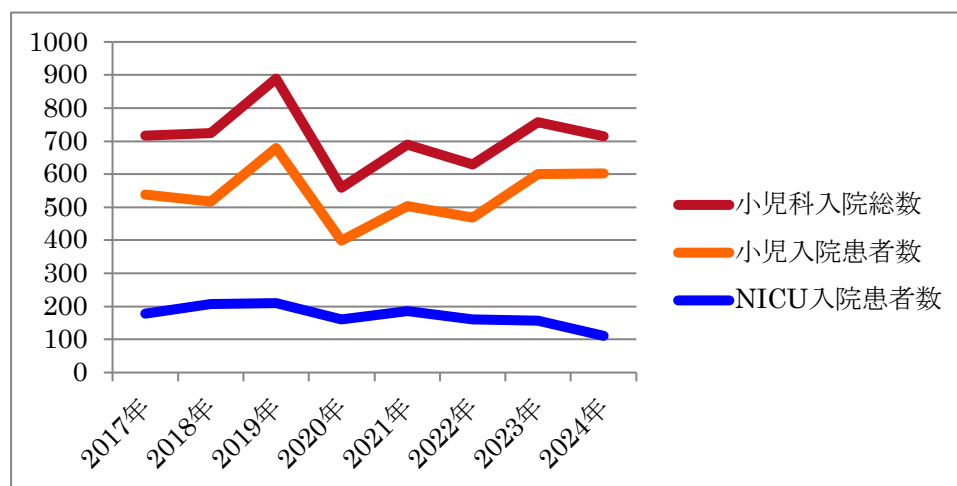
0歳 168人（28%）、1歳 124人（21%）、3歳以下 387人（64%）

※ NICU 入院患者は除く

感染症による 0-1 歳の入院数が多い傾向は例年通りです

5) 入院数の年次推移

	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
小児入院患者数	538	517	679	399	504	469	600	603
NICU 入院患者数	179	207	210	160	186	160	157	111
小児科入院総数	717	724	889	559	690	629	757	714



小児入院患者は新型コロナウイルス感染症の流行前の水準を維持しています

出生数の減少や大分県東部地域の分娩取扱施設の減少に伴って、NICU 入院患者数は減少傾向です

6) 入院患者の疾病区分

疾病区分	入院数	疾患内訳	症例数
感染症	425	RSウイルス感染症	97
		ライノウイルス感染症	56
		パラインフルエンザウイルス感染症	44
		肺炎マイコプラズマ感染症	30
		エンテロウイルス感染症	26
		ヒトメタニューモウイルス感染症	25
		COVID-19	21
		アデノウイルス感染症	17
		インフルエンザA・B	14
		病原体不明の急性胃腸炎	12
		蜂窩織炎	12
		ノロウイルス胃腸炎	11
		A群溶連菌感染症	9
		病原体不明の気道感染症	6
		ロタウイルス胃腸炎	6
		尿路感染症	5
		化膿性頸部リンパ節炎	4
		突発性発疹症	4
		細菌性腸炎	4
		急性脳症	3
		季節性コロナウイルス感染症	3
		細菌性肺炎	3
		菌血症	2
		ウイルス性髄膜炎	2
		細菌性髄膜炎	2
		化膿性関節・骨髄炎	2
		急性乳様突起炎	2
		カポジ水痘様発疹症	2
		毒素性ショック症候群	1
神経・精神疾患	33	複雑型熱性けいれん	25
		てんかん発作	5
		無熱性けいれん	2
		顔面神経麻痺	1
川崎病・自己免疫/炎症性疾患	27	川崎病	19
		免疫介在性壊死性ミオパチー	4
		PFAPA症候群菊池病	2
		菊池病	1
		IgA血管炎	1
アレルギー性疾患	23	アナフィラキシーショック	12
		気管支喘息発作	11
消化器疾患	18	急性虫垂炎	8
		イレウス	3
		腸重積症	2
		急性肝炎	2
		その他	3
事故・外傷・中毒	13	打撲傷・脳震盪	8
		骨折	2
		熱傷	2
		急性薬物中毒	1
内分泌・代謝性疾患	13	低身長症	7
		骨形成不全症	3
		1型糖尿病	2
		OTC欠損症	1
呼吸器疾患	7	嚢胞性線維症	7
血液・悪性腫瘍	5	肝芽腫	2
		急性リンパ性白血病	1
		骨髄異形成症候群	1
		特発性血小板減少性紫斑病	1
腎疾患	3	溶連菌感染後急性糸球体腎炎	3
循環器疾患	2	両大血管右室起始症	1
		心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	1
その他	34	周期性嘔吐症	12
		乳児血管腫	11
		熱中症	2
		その他	9
計	603		603

※ NICU 入院患者は除く

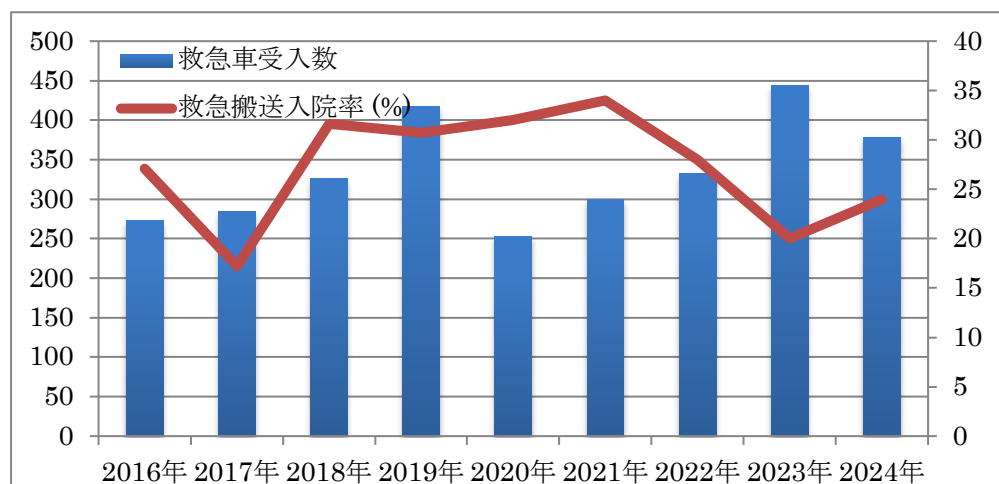
診断名が重複する場合は主たる入院病名を選択した

7) 救急車の受入数

月別救急車受入数（小児科）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
入院管理	5	6	11	11	10	6	5	9	7	7	1	11	89 (24%)
外来管理	18	23	21	26	28	27	20	28	23	19	17	39	289 (76%)
計	23	29	32	37	38	33	25	37	30	26	18	50	378 (100%)

救急車受入数と救急搬送入院率の年次推移



入院を要しない軽症の救急搬送が増加していましたが、やや改善が認められました
依然として成人・小児にかかわらず適正な救急車利用が課題です

8) 人工呼吸管理症例

RS ウイルス感染症に伴う呼吸不全 1 例

染色体異常・先天性心疾患術後 1 例

9) 院内手術症例（小児科が依頼・実施した手術症例）

診断	術式	例数	手術担当科
急性虫垂炎	腹腔鏡下虫垂切除術	6	消化器外科
腸重積症	空気整復術	2	小児科
精巣捻転	精巣固定術	1	泌尿器科
菊池病	頸部リンパ節生検	1	形成外科
先天性表皮水疱症	指間形成・拘縮解除術	1	形成外科

10) 死亡症例

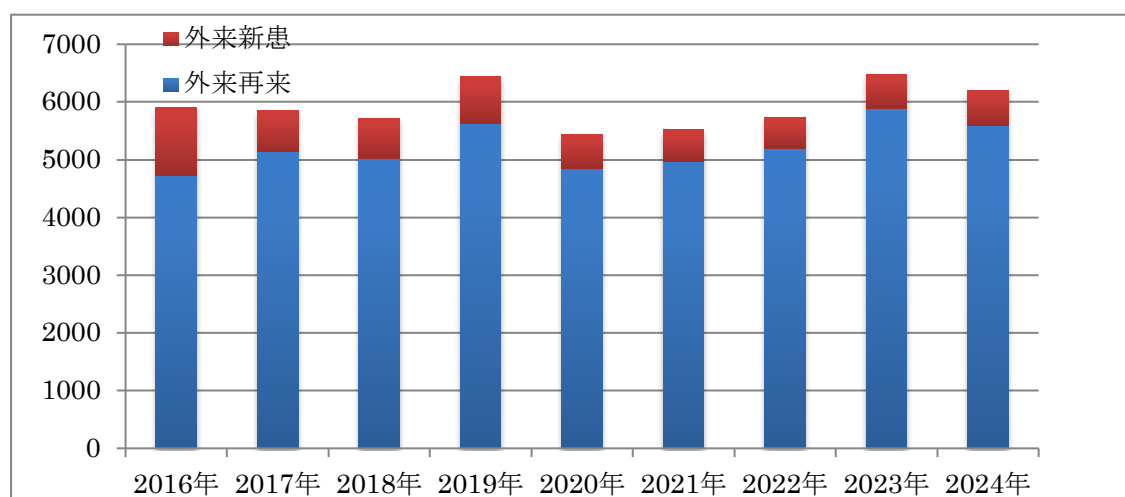
なし

2. 2024 年 小児科外来統計

1) 外来患者数

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	計
新規外来患者数	39	46	70	45	53	60	54	54	45	51	46	51	614
外来患者総数	520	495	679	458	503	505	563	554	477	510	438	508	6210

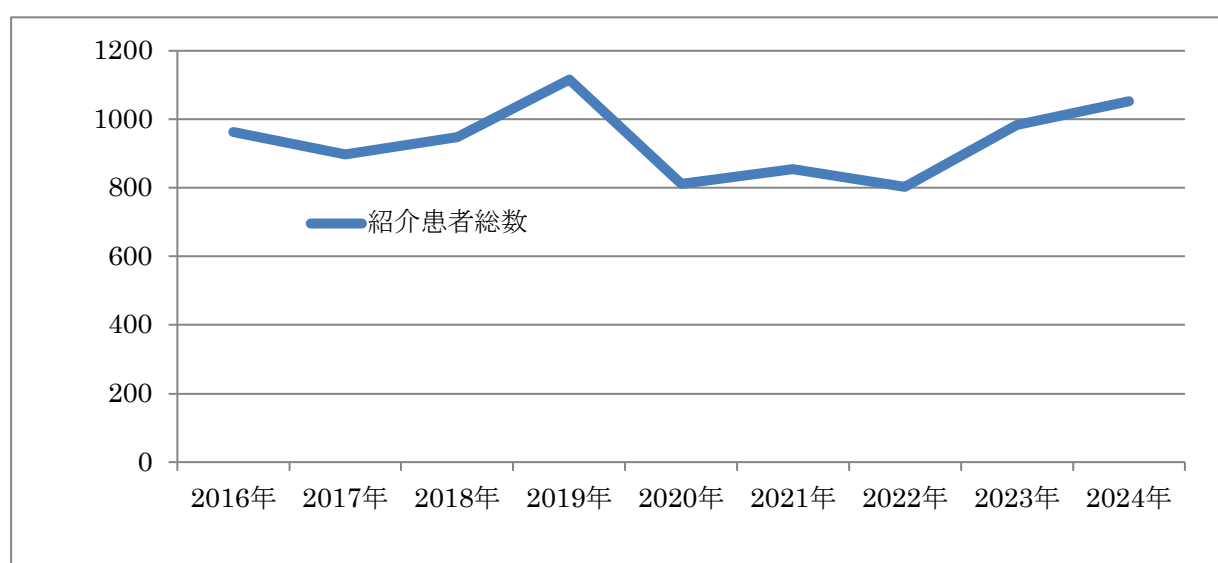
2) 外来患者数の年次推移



外来患者数は新型コロナウイルス感染症の流行前と同等の患者数で推移しています

3) 紹介患者数の年次推移

	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
紹介患者総数	897	948	1116	812	855	803	983	1053



紹介患者数は新型コロナウイルス感染症の流行前と同等の患者数で推移しています

4) 紹介元医療施設と紹介患者数

地域	地域別紹介患者数	紹介元医療施設	紹介患者数	
大分県	別府市	松本小児科医院	411	
		松井小児科医院	107	
		古城小児科医院	98	
		別府市夜間こども診療所	69	
		衛藤小児科医院	32	
		あおい産婦人科	35	
		河野小児科医院	21	
		別府市医師会地域保健センター	20	
		矢田こどもクリニック	12	
		別府発達医療センター	8	
		大分県厚生連鶴見病院	2	
		皮フ科 河野クリニック	2	
		新別府病院	1	
		国立病院機構 西別府病院	1	
		別府温泉病院	1	
		内田病院	1	
		みなと眼科クリニック	1	
		飛田内科外科クリニック	1	
		餅ヶ浜医院	1	
	日出町	126	すがこどもクリニック	76
			てしまこどもの杜クリニック	33
			矢野小児科医院	15
			金田耳鼻咽喉科医院	2
	杵築市	38	伊藤小児科循環器科医院	16
			杵築市立山香病院	13
			くりやまレディースクリニック	4
			友岡医院	3
			きつき眼科	1
	大分市	19	大生会 衛藤外科	1
			大分こども病院	8
			大分県立病院	6
			大分岡病院	2
			大川小児科・高砂	1
			わかやまこどもクリニック	1
			おおば脳神経外科・頭痛クリニック	1
	由布市	9	南由布クリニック	5
			大分大学医学部附属病院	3
			三ヶ田慈愛会 陣屋の里	1
	国東市	9	国東市民病院	7
			朝倉内科医院	1
			はるかぜ醫院	1
	宇佐市	7	新生会 宇佐胃腸内科医院	2
			佐藤レディースクリニック	2
			明徳会 佐藤とよかわクリニック	2
			宇佐レディースクリニック	1
	豊後高田市	3	ながまつ内科・小児科クリニック	2
			みずのえ呼吸器内科クリニック	1
	中津市	2	中津市立中津市民病院	1
			中津脳神経外科病院	1
	佐伯市	2	西田病院	1
			桑畑小児科医医院	1
	姫島村	1	姫島村国民健康保険診療所	1
	玖珠町	1	友光会 友成医院	1
福岡県	7	JCHO九州病院	3	
		福岡市立こども病院	2	
		その他	2	
その他県外			5	
計			1053	

※ 新生児搬送を除いた小児科紹介患者数

別府市内の医療施設からの紹介が全体の 78%を占めています

3. 2024 年 NICU 入院統計

1) 入院・転帰

入院と転帰

入院			死亡	
入院総数	111		0	(0%)
院内出生	99	(89%)	0	
院外出生	12	(11%)	0	
再入院	0			
生存退院	111	(100%)	死亡退院	0 (剖検数 0)

2) 在胎週数・出生体重別の入院数

在胎週数で区分した入院数

週数 (wks)	全入院		院内		院外		院外出生児 の割合
	生存	死亡	生存	死亡	生存	死亡	
26	0	0	0	0	0	0	
27	0	0	0	0	0	0	
28	1	0	1	0	0	0	0%
29	2	0	2	0	0	0	0%
30	0	0	0	0	0	0	
31	0	0	0	0	0	0	
32	3	0	3	0	0	0	0%
33	4	0	3	0	1	0	25%
34	8	0	8	0	0	0	0%
35	6	0	5	0	1	0	17%
36	17	0	17	0	0	0	0%
37	23	0	20	0	3	0	13%
38	21	0	20	0	1	0	5%
39	10	0	8	0	2	0	20%
40	13	0	10	0	3	0	23%
41	3	0	2	0	1	0	33%
42	0	0	0	0	0	0	
計	111	0	99	0	12	0	11%

※ 在胎 35 週以下の院外出生 8.3% (2/24)、在胎 36 週以上の院外出生 11% (10/87)

在胎 35 週以下の院外出生 2 例のうち 1 例は自宅分娩、1 例は杵築市内の医療施設分娩でした

在胎 36 週以上の自宅分娩は 1 例でした

出生体重で区分した入院数

出生体重 (g)	全入院		院内		院外		院外出生児 の割合
	生存	死亡	生存	死亡	生存	死亡	
500-749	0	0	0	0	0	0	
750-999	1	0	1	0	0	0	0%
1000-1499	3	0	3	0	0	0	0%
1500-1999	11	0	11	0	0	0	0%
2000-2499	37	0	34	0	3	0	9%
2500-2999	26	0	23	0	3	0	12%
3000-3499	24	0	18	0	6	0	25%
3500-	9	0	9	0	0	0	0%
計	111	0	99	0	12	0	11%

※ 出生体重 2500g 未満の院外出生 6% (3/52)、出生体重 2500g 以上の院外出生 15% (9/59)

別府市・杵築市の分娩取扱施設の減少に伴い院外出生の割合が低下しています

3) 呼吸管理症例

	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
呼吸管理総数	36	56	45	29	30	38	18
SIMV/HFV 単独	3	5	1	1	3	3	0
SIMV/HFV + Nasal CPAP	18	10	4	8	7	6	4
Nasal CPAP 単独	15	41	40	20	20	29	14

SIMV, Synchronized intermittent mandatory ventilation (間欠的強制換気)

HFV, High frequency ventilation (高頻度人工換気)

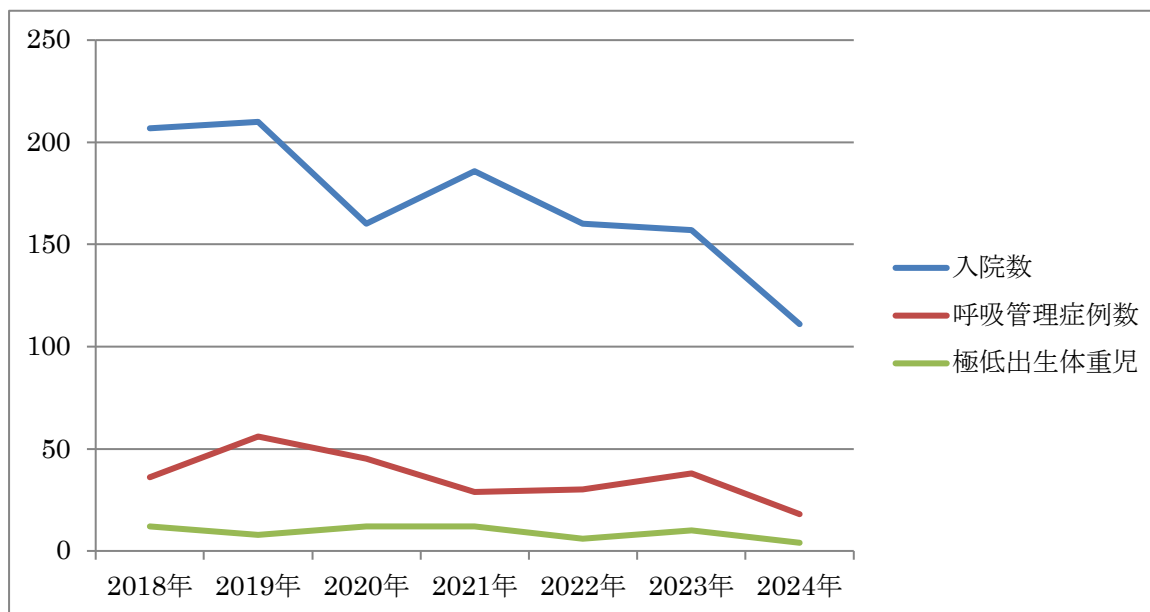
CPAP, Continuous positive airway pressure (経鼻的持続陽圧呼吸)

4) 院内手術症例

なし

5) 入院数等の年次推移

	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
入院数	207	210	160	186	160	157	111
呼吸管理症例数	36	56	45	29	30	38	18
極低出生体重児	12	8	12	12	6	10	4



6) Category 別の推移

	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
染色体異常	0	1	1	2	0	1	1	0
奇形症候群	3	4	5	1	1	1	1	0
先天性心疾患	3	4	8	5	2	7	3	4
外科的疾患	1	0	0	1	3	3	2	1
極低出生体重児	7	11	8	12	12	6	10	4
低出生体重児	67	85	78	64	93	62	63	46
新生児仮死	5	5	7	1	4	3	5	3
頭蓋内出血	3	6	2	3	1	1	0	1
神経疾患	1	0	0	0	1	1	0	0
感染症	6	3	3	5	3	8	6	4
呼吸障害	20	19	25	19	16	17	13	8
Low Risk	45	52	50	31	35	22	28	18
その他	18	17	23	16	15	28	25	22
再入院	0	0	0	0	0	0	0	0
計	179	207	210	160	186	160	157	111

7) 他院への転院症例

診断	出生場所	転院先
VACTERL 連合	院内	福岡市立こども病院
心室頻拍	院内	大分県立病院
低酸素性虚血性脳症	院内	大分大学医学部附属病院
肺動脈閉鎖症	院外	JCHO 九州病院
両大血管右室起始症	院内	JCHO 九州病院

例年と同様に、出生後に緊急対応が必要な先天性心疾患の分娩例が院外出生になっていました
 一次医療施設の胎児超音波検査で確定診断に至る必要はありませんが、四腔断面像で明らかなバランスの異常を認めた場合には出生前に二次医療施設へ母体紹介されるようにすることが今後の課題です

8) 他院から新生児搬送依頼に応じた院内救急車出動

	出動回数	搬送入院	立会いのみ	当院から転院	三角搬送
2017 年	47	41	1	5	0
2018 年	40	35	0	5	0
2019 年	43	34	1	7	1
2020 年	31	25	1	5	0
2021 年	36	27	0	9	0
2022 年	41	32	0	9	0
2023 年	29	22	1	6	0
2024 年	11	6	0	5	0

9) 新生児用救急車の出動先（産科医療施設）

地域	出生場所	回数
別府市	あおい産婦人科	3
杵築市	くりやまレディースクリニック	2
宇佐市	佐藤レディースクリニック	1
計		6

10) 死亡症例

なし

4. 臨床研究・研究業績

1) 臨床研究

治験

対象疾患	課題名	2025 年の登録状況
成長ホルモン分泌不全性低身長症	小児成長ホルモン分泌不全性低身長症患者を対象にグロウジェクトの連続投与に対する JR-142 の週 1 回投与の非劣性検証並びに有効性及び安全性を比較評価する、非盲検、多施設共同、無作為化、並行群間比較、第Ⅲ相試験	エントリー中
von Willebrand 病	重度 von Willebrand 病と診断された小児患者を対象に recombinant von Willebrand factor の定期補充療法の有効性及び安全性を評価する第 3 相、前向き、非盲検、非対照、多施設共同試験	エントリー中

契約受託研究（製造販売後調査）

対象疾患	課題名	2025 年の登録状況
敗血症・深在性皮膚感染症	キュビシン®静注用 350mg 特定使用成績調査 ：日本人小児患者への投与時の安全性	エントリー中
成長ホルモン分泌不全性低身長症	骨端線閉鎖を伴わない成長ホルモン分泌不全性低身長症患者におけるソグルーヤ®長期使用に関する特定使用成績調査	エントリー中

NHO ネットワーク共同研究

課題名	2025 年の継続状況
周産期のシンバイオティクス投与による食物アレルギー発症予防効果の多施設共同二重盲検ランダム化比較試験による検証（R4-NHO-01）	継続
クルミ・カシューナッツアレルギー発症に影響する宿主因子と環境因子の解明 多施設共同前向きコホート研究（R5-NHO-01）	継続

NHO ネットワーク以外の共同研究

課題名	2025 年の継続状況
小児における B 群連鎖球菌感染症ナショナルサーベイランス	継続
国内の未治療血友病 B 小児患者における rIX-FP 投与後の治療実態に関する遡及的診療記録レビュー	継続

単施設研究

対象疾患	課題名	2025 年の登録状況
5 歳以下の感染症の入院症例	咽頭画像の AI 解析による病原体診断の実用化に向けたパイロット研究	継続

2) 研究業績

学会発表・講演

演題名	発表者	学会名	日付	場所
ついに始まる大分県の拡大マスキング検査 ～脊髄性筋萎縮症（SMA）～	山本 圭亮	第 119 回日本小児科学会 大分地方会	2024.2.18	大分
はじめの一步をどう踏み出そう、臨床研究	古賀 寛史	第 127 回日本小児科学会 学術集会	2024.4.20	福岡

論文

題名	筆者	誌名	年	巻(号)	ページ
Asymptomatic 3-methylglutaconic aciduria type 1 detected by high C5-OH on newborn screening	Itonaga T, Maeda M, Koga H, Hasegawa Y, Ihara K.	Molecular Genetics and Metabolism Reports	2024	138	101024
PURA-related neurodevelopmental disorders: a systematic review on genotype-phenotype correlations	Taniguchi N, Watanuki K Nakato D, Takenouchi T, Kosaki K, Koga H.	Journal of Medical Genetics		[in press]	

その他（著書・班研究報告書など）

なし

4. 総評

1) 2024 年の所感

地域住民の方々、近隣の多くの医療機関の皆様のご支援のおかげで一年間の診療を全うすることができました。毎年のことながら感謝申し上げます。労働人口の減少、働き方改革、ワーク・ライフ・バランスの変化によって労働環境が変化していますが、他の業種と比較して医療業界は、このような変化への対応が未だ遅れているように感じます。当院では外国人の小児・新生児の入院患者が増加しております。このような外国人の御両親の多くは日本国内で就業し、納税に寄与しておられます。少子高齢化・人口減少社会の対策として外国人移住者の促進を耳にすることがありますが、実際に外国人の御両親とお話しすると円安相場の影響で生活は楽ではないと聞きます。外国人の受入政策には、課題が存在しています。

【臨床】

マンパワーや医療費が一定の状況下では、医療職員の負担軽減（働き方改革）と医療サービスの質の維持は、トレードオフの関係にあると考えます。しかしながら、多くの医療現場でその両立が求められています。一律の過剰労働は規制されるべきですが、医療技術の習得に専心しようとする意欲ある医師の勤務を制限する必要はないはずです。労働時間単位の評価制度ではなく、労働成果単位の評価制度を定めることができれば、より適正な労働報酬となり、結果的に全体の労働時間短縮につながるかもしれません。

【研究】

専門医取得のための臨床研究を中心に、治験や多施設共同研究を行っています。文部科学省 科学技術・学術政策研究所「科学技術指標 2024」によると、分数カウント法による引用回数 Top10%補正論文数（全 8 分野合計）が前年の報告と同様に日本は世界 13 位であり、インド・韓国・イランが日本を上回っています。臨床研究に興味を持つ若い医師の割合が低下しているように感じられます。日々の臨床で生じた疑問を臨床研究に結びつけ、その成果を Publish して引用される喜びを経験すれば、臨床研究のモチベーションになると考えています。

【教育】

後期研修以降の小児科専門医・サブスペシャリティ専門医の取得を引き続き支援していきます。

2) 2025 年に向けて

2024 年の出生数は、国内全体で約 68.5 万人、大分県内で約 6 千人と報告されています。2017 年に国立社会保障・人口問題研究所から公表された日本の将来推計人口では、2024 年の出生数（中位）は 85.1 万人、2040 年の出生数（中位）は 74.2 万人と推定されていましたが、その予測を上回るスピードで出生数が減少しています。労働人口減少や患者数減少を見据えた医療体制の再整備と医療施設の集約化を進める必要があります。近隣の小児・産科医施設の皆様には日頃よりご支援、ご配慮をいただき感謝しております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

医療機関からの外来受診、入院、新生児搬送などのご依頼は

(平日、日勤帯) TEL 0977-67-1111 → 小児科外来（小児）、内線 8126（新生児搬送・古賀直通）

(夜間休日) TEL 0977-67-1111（代表経由で NICU 当直医）まで よろしくお願ひ致します。

国立病院機構 別府医療センター 小児科 古賀寛史

E-mail: koga.hiroshi.ab@mail.hosp.go.jp